

LEE'S レター **てっ が く なか に わ** 哲樂の中庭 2025 年立春

たかだか 30 年
されど 30 年

初めて事務所をもった 1995 年 3 月から今年で 30 年。たかだか 30 年ですが、個人にとっては、されど 30 年。ささやかに、記念号にいたしました。

No.37 特別 (通No.116)
2025 年 2 月 3 日

守りたい究極のなせる

印象、習慣、閃き

二〇一五年十二月下旬のある朝に浮かんだ問い、自分の守りたいものの究極は何か。顔を洗い終えた瞬間パツと答えが浮かんだ。

「自分の精神性」。カンペを見せられたように、はつきりと。

一番守りたいものの究極は自分の精神性……。過去の重要な判断、決断、行動など等、そのすべてに合点がいった。そう生きてきたはずだけど、初めて意識できた。

二〇一八年一月のある朝。直近に頼まれているセミナーのテーマ「自分の軸」を考えていた。「自分の軸」とは何を指す？ ある瞬間、「自分の守りたいものの究極」とつながった。「自分の軸」とは、「自分の守りたいものの究極」。そのためには、軌轢や葛藤、不安定さも許容できる。

「自分の軸」↓「自分の守りたいものの究極」。ある人は「子ども」、ある人は「家業」、ある人は……。人のそれに応じて、意識、知識、技能、センスが積み上がり、同じものを見ても聞いても、感じ方と考え方は異なる。

つよく感じて、ずっと記憶にのこる「印象」。感じて考えて、ある瞬間にうかぶ「閃き」。どちらもまたその人だけのもの。そう考えると、「印象」と「閃き」はその人のアイデンティティを表す一番の現象か。そこに日常的な「習慣」が加わり、その人の世界が彩られ、物語られていく。その源が「守りたいものの究極」。

たかだか三十年、されど三十年の「体験学習」から、今はそんな観察結果にたどりつくのでした。

“自分に試練を与えねば…”

自宅を事務所にしたのが 1991 年春、それから 3 年後の 1994 年秋にじわりと閃きました。“もっと自分に試練を与えねば…、そうだ、事務所を持とう…”。たぶん苦境に立たされる、葛藤している自分がいるのは容易に想像できる。でも、だからこそ何かをもたらしてくれる。そんな確信めいたものはあったのです。さっそく事務所探しを始めました。出だしはラッキー、直後にハードル、そして得るこたえ。

この事務所探しからの一件は「何かをもたらしてくれる」始まりでした。2020 年の「コロナ禍」一年目のヒマなときにそれらを音声で記録していました。2020 年は独立 30 年目の節目だったのです。
[*このたび記念ページを Web に仮設して重掲](#)



1998/5/18 日刊京都経済新聞掲載

「印象」は未来の予告か 「閃き」は『転ばぬ先の杖』か

「印象」は、記録していなくても、そのときの光景までも、ずっと記憶していること。なぜ忘れずに憶えているのか。それは、そのことが自身の内面とつながっているからですね、自分では気づいていなくても。

独立志向は全くなかったのに、独立することになったのは自分でも不思議ですが、目利きの大人には見えていたのかもしれませんが。20代の頃、人も時期も場所も別だけど、三人の大人から同じようなことを言われた。今のあり様を予言・予告するようなひと言。

彼らはよくぞ言葉にしてくれました。おかげで過去の時空が長い時間を経て未来の現在につながり、象徴的な「印象」となりました。天国から「ほら、ね」と見下ろしていそうです。

2010年1月から超朝型です。内も外も音のない時間帯から、「閃き」を期待し、出かけるまでの時間をたっぷりとして、カラダは慣れ親しんだことをしながら、頭の方は思考をめぐらす。すると、時に「閃き」のご加護あり。

小さなものから、大きなものまで、その「閃き」の実践のおかげで、のちのち胸をなでおろす、現状をより好転

させる展開に。“もしあのことを閃いてなかったら…”、ある種の〈災い〉の元になったに違いありません。

「印象」は未来の予告か。その人だけの「印象」に、その人のあり得る未来がひそんでいる、と言えそう。

「閃き」は『転ばぬ先の杖』か。その人だけの「閃き」は、ある種の〈防災〉、その人のワークとライフの道すじを安定させ、平和にする。

「印象」と「閃き」。誰にとっても大切な瞬間、宝もの。若い人はますます、熟年もさらにこれからも積み重ねるのですから、未来がたのしみですね、おたがいに。

30周年記念ページ

<https://www.leeslee.com/LEES30anniversary>

その30年来の旧知がゆったりとしたギャラリー開催

<https://www.leeslee.com/gallery20250201.pdf/>



『拠点ゼミ Vol.3』ご案内

「女性チャレンジ応援拠点」の今年度第3回『拠点ゼミ・車座オープンカナルー時に立ちどまり〈先を読む〉-2025年春』は、「一年の計」に弾みをつけるコツ!」をテーマに、自分ならではのワークとライフを展望し、この一年の歩みを考えます。あなたの「一年の計」に弾みがつくはずです。

- 日時：3月8日(土) 10時
- 場所：クレオ大阪中央館

クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)や管理運営する大阪男女いきいき財団のセミナーや各種事業には、自身のワークとライフを探求する人たちが、会社の指示などではなく、個人の立場で参加する方がほとんどです。そういう人たちと接し、「パーソナル・アシスタント」を実践できていることが仕合せです。

あなたが起つ、その時のために

“人間、けっきょく自分の想うように生きていく…”。若い頃に身近な大人が予告してくれた未来がある程度あたっていそうで、そんな気になりました。一度も結婚せずシングルでずっといることも、〈自分の守りたい究極〉のなせるワザといえますし。

でも、そんな気になれるのは、そう多くないでしょうね、たぶん。仕事上でたくさんの方の起業やチャレンジの想いを聴いていると、身の回りの状況が許さない、自分でも踏み出せない、ことも多いですから。

2014年3月中旬、85才になられる人生の大先輩から頂戴した額があります、『究めればそこが天職』。ある程度は自分の想うように生きてこられた者として、「起つ時がきた!」という誰かの後押しをしっかりとできるよう、無理はせず、でも努力はかさねて、パーソナル・アシスタントを究めていこうとします、これからは。

